

[ここに入力]

八王子の老舗和菓子屋「大村屋」の大久保長安小判饅頭です。カボチャ餡でしょうか。とても美味。他にも色鮮やかな生菓子や饅頭などたくさんの和菓子がありません。駅から遠いのですが隠れた名店です。是非お立ち寄りになってみては！

紅葉台



新聞

第81号

2023年
6月10日

発行人：関谷 孝

八王子の街と大久保長安



八王子の春一番のお祭りが「長安祭り」。今年で8年目。今年は大久保長安の没後410年になる4月23日に、「長安祭り」が3年ぶりに行われました。

大久保長安は、NHK「ブラタモリ」でも紹介されましたが、八王子の街の基礎と

築いた人です。大久保長安は、1590年八王子城の落城後、徳川家康に仕え、代官頭として甲州街道や八王子15宿の整備、千人同心を組織しました。また、浅川の治水工事を行い、市街地を洪水から守りました。その後も石見银山、佐渡金山を開発し徳川幕府の財政に大きな寄与をしました。現在の小門町に陣屋を設け、その敷地内に守り神として創建したのが「産千代神社」です。市民団体「大久保長安の会」がその功績を広く市民に知ってもらおうと4月21日から23日に八王子15宿巡り絵図&スタンプラリーを実施しました。

そこで、大久保長安に興味を持った友人と一緒にスタンプラリーに参加しました。スタンプラリーの台紙になっている絵地図には、中心市街地の地名がかつて甲州街道沿いにあった15宿が今も残されています。江戸時代に作られた八王子と今の八王子がリンクした絵図を片手にスタンプを集めながら長安ゆかりの地を巡りました。

初めに、八王子駅から子安神社に行きました。（子安宿）安産の祈願に人がたくさん来ていました。湧水で有名なところ。ここで絵地図をもらいました。

次は本宿の近くにある花水木という名前の花屋さんです。この辺りは商店街ですが、今でもご子息が地元の人たちに愛されるお店を営んでいます。コロッケが美味しい肉の富士屋やパン屋、お風呂屋さんもありました。（本宿）その次は、まちの駅「CHITOSEYA」（八日市宿）新しい八王子の特産品がたくさんありました。また、地元食材を使った食事もあります。

甲州街道をまっすぐ歩いていくと突然昔からの蔵に出会います。そこは荒物加島屋（八幡宿）で今でもお店をしています。珍しい建物なので思わず写真を撮りました。



その真向かいが「あったかい肌着」の大きな文字で有名な「イツミヤ」（八木宿）それ以上に有名なのが中野智行さんの「八王子国歩の歩き方」You-Tuber。これは本当に素晴らしいので是非ご覧ください。八王子の魅力をあまなく語っている中野さんの軽妙な語り不思議な言葉に魅了されます。この日は中野さんのお母様に会い、感激でした。その近くに和菓子の老舗「大村屋」があります。ここでは、大久保長安のお饅頭を買いました。とて



もおいしかったので紹介します。（題字の写真）憩いの庭もあり季節の花がたくさん咲いていました。そのまま歩いていくと追分の交差点にぶつかります。甲州街道と陣場街道の分岐点にある揺籃社。八王子の事ならなんでも本にしている地元の出版社です。自分史をつくることもできます。「はちとぴ」は揺籃社の地元紙です。（久保宿）

陣場街道を行く先にあるのが日吉八王子神社です。（嶋之坊宿）伝統芸能のお囃子と踊りを境内でやっていました。

線路を超えて反対側にある信松院。松姫伝説の松姫の墓があるところです。八王子8福神の1つ布袋尊があります。



そしていよいよ最後は、産千代稻荷神社。大久保石見守陣屋跡です。長安祭のこともあり、たくさんの方がいました。屋台も出て賑わっています。長い列に並んでスタンプを見せます。スタンプが5個で大久保長安の缶バッジとシール。10個全部集めると絵本「長安様のまちづくり」です。ここまで約3時間の歩き。八王子の街の宿場をぐるりとめぐってきました。普段なかなか歴史を考えることもなかったのが今回の企画はとてもいい勉強になりました。八王子の歴史や街を知るとますますこの町が身近に感じられ、八王子の街が前よりもっと好きになりました。



【文責 関谷】

粕谷和夫の観察日記 コゴミ



信州の友人からコゴミが送られてきました。コゴミは、あく抜きしなくて食べられるシダです。早速茹でて（熱湯に1分間）食べました。歯ごたえがあって美味しかったです。

♥ 信州は、山菜の宝庫ですね。コゴミはさっとゆでて食べることが出来るのはいいですね。自然にあるものを美味しくいただくのが健康の秘訣なのだと思います。



アサギマダラの蛹 抜け殻

キジョランの葉を食べて飛び立ったアサギマダラです。4月24日八王子市川町の谷戸で毎月1回野鳥カウントをしています。この谷戸のシイタケのほだ木の明るい杉林にキジョランがあって、葉が虫に食べられた跡が目立ったので、もしやと思い葉裏を見ると羽化後のアサギマダラの蛹の抜け殻が残っていました。

♥すごい発見ですね。葉の虫食いから推測し、蛹を見つけたのは、金田一耕助そのものです。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。